

眺望

PROSPECTS

熊本県観光連盟

専務理事 倉光 麻里子



心弾む
感動県くまもとへ
(1)

先の大雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日も早いご回復、復興を願っております。

さて、全国の有名観光地で外国人旅行者によるオーバーツーリズムが話題として取り上げられることが多くなりました。熊本市内においても、多くの外国人旅行者をお見かけします。実際、令和6年の熊本県における外国人延べ宿泊者数は、直行便の増加の影響などもあり、過去最高の147万人となりました。現在、一部国際線の運休など不安定な要素はありますが、インバウンド全体としてこの流れは当面続くものと思われます。

一方、宿泊者の8割を占める日本人延べ宿泊者数は令和5年から11%減の約660万人となっており、国内客の回復は大きな課題です。

観光は、熊本を代表する産業のひとつです。令和5年の県の観光消費額は、過去最高の約3,733億円に上り、農業産出額3,757億円に匹敵する規模となっています。また、観光交流人口増大の経済効果として、定住人口1人当たりの年間消費額135万円は、国内旅行者（宿泊）21人分、外国人旅行者6人分に当たるとい、観光庁の試算もあります。人口減少により地域経済の縮小が懸念される中、観光交流人口を増やし、観光産業を持続可能な産業として成長させていくことは、地域経済の活性化に大きく貢献すると考えられます。

昨年度、県では「ようこそくまもと観光立県推進計画」が策定されました。基本目標は「日常を忘れるひととき、心弾む“感動県くまもと”」。“くまもとらしさ”の探求や“今”“ここ”でしか体験できない“熊本ならではの”を意識した観光地域づくりを進め、訪れた人の満足度を高めることでリピーターの確保や消費を促す取り組みを行うという内容になっています。

令和8年夏には、県が中心となりJRグループ6社と連携したデスティネーションキャンペーンが7年ぶりに開催されます。来年のキャンペーンに向け、8月27日から3日間、全国の旅行関係者を招いた全国宣伝販売促進会議やエキスカッションが行われ、熊本の観光や食の魅力がPRされました。私自身、改めて熊本の素晴らしさ、奥深さを実感するとともに大変誇らしく思えた時間でした。

熊本は豊かな自然、歴史・文化、魅力的な食、温泉etc、観光資源には事欠かない県です。熊本県公式観光サイト「もっと、もーっと！くまもっと。」を是非覗いてみてください。皆様方が思わず出かけたくなる県内各地の魅力が満載です。

当連盟では、これからも熊本の魅力を発信し、熊本が国内外から選ばれ、選ばれ続ける観光地となるよう取り組んで参ります。